

花王 日本初の自動投入洗濯機専用の柔軟仕上剤を発売

アタックハミングで自動投入洗濯機向け商品提案を強化

花王は9月26日、日本初となる自動投入洗濯機専用の柔軟仕上剤「ハミング自動投入専用」(1200mL、オープン価格)を発売する。あわせて「アタックZERO(ゼロ)ドラム式専用」(850g・1200g、オープン価格)もパッケージを改良し、自動投入洗濯機に最適な商品提案を強化していく。

近年、ライフスタイルの変化や、ラク家事ニーズの拡大により、自動投入洗濯機の普及率が急速に高まっており、今後も伸長することが見込まれている。

そこで、「ハミング」の特長により、補充タンの掃除の際は水ですっとすすぐだけでキレイになり、お手入れの手間を軽減する。

「トップスーパードライ」自動投入洗濯機専用」を発売

ライオン

ライオンは10月5日、「洗浄」「消臭」「徹底抗菌」「洗濯槽をカビから守る」の4つの機能を1つに凝縮した洗濯用液体高濃度洗剤「トップスーパードライ」自動投入洗濯機専用(850g、オープン価格)を全国で発売する。

自動投入洗濯機は、2017年末に自動投入機、洗濯機が発売されて以降、買い求めやすいタイプの自動投入洗濯機も家

を、従来以上にわかりやすく伝えていく。

同社は、急速に普及率が高まり、今後も伸長が見込まれる自動投入洗濯機に対応すべく、今回の「ハミング 自動投入専用」と「アタックZEROドラム式専用」の提案をスタート。日本の洗濯シーンを先導し、ファミリー層のニーズを捉え、高機能で効率的な家電製品を購入する傾向が高まっている。このようにニーズの高まりを受け、自動投入機能が搭載された洗濯機の発売が



今後続き、2030年の種類の酵素を配合することにより、様々な洗濯コースに対応し、強力に洗浄機能を発揮する。さらに超濃縮技術により、従来型液体洗剤の標準使用量の約1/4で済むことで約4カ月継ぎ足しが不要になるなど、洗剤タンクのつめかえ頻度が軽減できる利便性も実現した。

電メーカ各社から発売され、世帯保有率は2021年で9・9%(2019年11・3・1%、2020年11・6・8%)まで拡大している。また、生活者の在宅率の増加に伴い、家事への負担やストレスが増加傾向にある中、少しでも手間なく、効率的かつ質の高い家事を求めるニーズが向上しており、高機能で効率的な家電製品を購入する傾向が高まっている。このようにニーズの高まりを受け、自動投入機能が搭載された洗濯機の発売が

花王 グリーバンス メカニズムの運用を開始

花王は、2022年9月より、ビジネスと人権を専門とするNPO法人経済人コー円卓会議日本委員会(CRT日本委員会)と協働で、インドネシアの小規模パーム農園を対象としたグリーバンスメカニズム(苦情処理メカニズム)の運用を開始した。

グリーバンスメカニズムにより、農園の苦情や問い合わせを受け付け、「調査」「対応」「解決」「フォローアップ」「報告」まで行い、同社にとって最も重要な自然資本の一つであるパーム油に対し、社会・環境の面、特に小規模パーム農園の人権における本質的な課題解決に向けて取り組んでいく。

セントリックソフトウェア

コスメ向けPLMで製品に関連する全てのデータを一元管理し新製品開発の成功率を向上

トレサビリティが単なるトレンドではなく、透明性を求める消費者の声に応えるため、商品に使用する成分や素材が倫理的に調達されていることを証明する必要性に迫られている。セントリックソフトウェアでは製品情報の可視性を高め、品質、コンプライアンス、トレサビリティのリスクを軽減する化粧品業界向けPLM(製品ライフサイクル管理)を提案している。

米国シリコンバレーに本社を置くセントリックソフトウェアが、日本市場での化粧品&パーソナルケア用品向けPLMの展開を加速している。

同社のPLMは、商品づくりに関わるあらゆる情報を管理し、商品開発の最適化、市場投入期間の短縮、商品ポートフォリオと品揃えの最適化を実現する。

また、企画、生産、



とで、開発中の新製品に含まれる原材料の成分把握と国ごとに異なる規制を考慮した処方管理も可能となる。

原材料の原産地情報や製造工場などの認証など主張の証拠となる監査文書等もシステム上で管理でき、製品訴求に必要なエビデンスを適正に管理できるため、トレサビリティの実現が容易になるという。

同社のPLMでは、外部のサプライヤー(OEM製造工場や容器メーカー)とシステムを介して提案や試作品の依頼を行うことも可能だ。サプライヤーはポータルにログインし、見積りや納期を回答できるほか、商品や成分のライフサイクルを化粧品会社と共有し、テスト結果、特性等の様々な技術情報を直接システムに登録することもできる。

試作品に関する要望や指示等のサプライヤーとのコミュニケーションもシステム内で完結させることができ、煩雑なメールでのやりとりが回避され、試作品のバージョン管理も容易となる。

品質管理面では各マイルストーンの管理ポインタで承認プロセスを設けることで、人による情報の集約作業や属人的で反復的な確認作業を一掃できる。

これらの機能が評価され、今月にはプレミアムアンチエイジング社に採用されたほか、化粧品メーカーからの引き合いが着実に増えているという。

